

百日咳の報告数が増加しています(注意喚起)

県内で百日咳の患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査において、令和7年の累計患者数は147人(第20週)となり、平成30年に全数報告となってから最も届出の多かった、令和元年の118人を超えました。

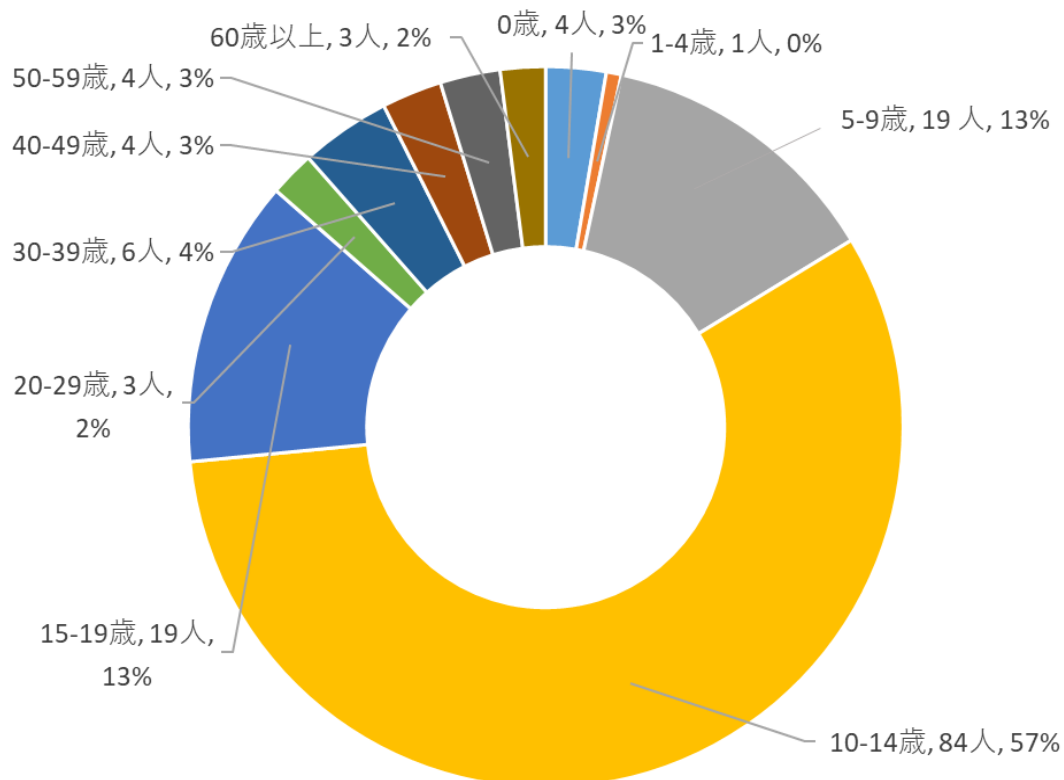
百日咳は特有のけいれん性の咳が長期間続く感染症です。新生児や乳児の重症化予防には予防接種(5種混合ワクチン)が有効です。ワクチン接種から時間が経過すると抵抗力が低下するため、成人であっても感染し周囲へ広めてしまうことがあります。

症状が出た場合は咳エチケットなどの徹底をお願いします。また、咳が長引く場合は、医療機関へご相談ください。

【過去6年間から現在までの宮城県内の百日咳患者報告数】

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年 (第20週)
報告人数	118	41	2	3	3	6	147

【百日咳患者の年齢区分(n=147)】



～百日咳とは～

原因：百日咳菌により感染します。

症状：かぜ様症状で始まり、次第に百日咳特有の咳（顔を真っ赤にしてコンコンと激しく発作性に咳き込み、ヒューと音を立てて息を吸う発作となります）。

新生児や乳児では咳が先行しないこともあり、重症例では肺炎、脳症を合併することがあります。

好発年齢：ワクチン未接種の乳幼児やワクチン接種後年数が経過し、免疫が減衰した青年や成人です。

潜伏期間：7～10日。

感染経路：飛沫感染・・・咳やくしゃみなどによって感染します。

接触感染・・・菌が付着した手で口や鼻に触れることによって感染します。

治療：発症から5日以内の抗菌薬投与が有効とされます。

～百日咳の予防～

- ・百日咳の予防には、生後2か月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチン等の接種が有効です。
- ・ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。

○ 参考となるホームページ

厚生労働省「百日咳」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/whooping_cough.html

国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「百日咳」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/index.html>